

県政活動報告

茨城県議会議員

西野はじめ

【2022年2月発行】

発行 / 西野はじめ

〒313-0052 常陸太田市東二町 2229

TEL 0294(72)3040

FAX 0294(33)5031

Mail info@nishino-hajime.jp

https://nishino-hajime.jp



新型コロナと相対して3年目を迎えました。皆様に直接報告する機会が得られないため、紙上で報告に代えさせていただきます。昨年の1月は初めて会派代表として質疑を行いました。また、昨年は総務委員会の委員として活動し、今年も引き続き同じ委員として活動させていただきます。昨年11月に議会運営委員会の委員長となり、引き続き委員長として正副議長と共に議会の円滑・活発な運営の一助となるべく頑張ります。

さて現在、茨城県も1月27日から2月20日までの『まん延防止等重点措置』が適用されることになりましたが、今回の県政活動報告は少しでも明るい兆しのものを中心に報告させていただきます。

まずは、常陸太田市の金砂地区にOFF-GRID TEST SITE(オフグリッドテストサイト)が誕生したと聞き、その実験施設をかまえる東京大学大学院の特任教授などを歴任した中川聰代表(トライポッド・デザイン(株))にお話を伺いました。

土壌や水からも発電できる「超小集電」が県北の未来を切り開く！？

「超小集電」とはなんですか？ できることは？

中川：超小集電は、海洋水や河川水、雨水や土壌といった私たちを取り巻く自然環境を構成する物質を介して小さな電気を収集する技術です。この技術を暮らしの中で上手に利用して、環境に負荷をかけにくい未来の暮らしを訴求したいと思います。

電源がない場所でも電気が使えることにより、センシング技術を活用し、例えば、高齢化が進む県北でも大きな工事や人手を大量に使うことなく、山での害獣対策や川での洪水予測やセキュリティ対策、また、土壌研究などを利用し、負担の少ない農業など様々なことができるようになります。ほか、今まで研究ができなかった深海や砂漠などでのデータ採集や人体に装着できるバッテリー無しの補助器具の開発など様々な可能性を秘めています。



空庵で行われた中川氏との対談

センシング技術…センサーなどを使用して様々な情報を計測して数値化する技術の総称。数値化できる情報には、温度・音量・明るさ・耐久性などの要素があり多くの場所で活用が可能。



2021年7月にできた空庵



10月にはコンサートが開かれた

常陸太田にオフグリッドの実験施設が誕生！

OFF-GRID TEST SITE(オフグリッドテストサイト)とはなんですか？ この場所を選んだ理由は？

中川：長年研究に使っていた常陸太田市の金砂地区を2021年3月以降、「OFF-GRID TEST SITE」と改名し、本格的な超小集電の社会実装に向けた研究施設の建設と区域の整備に取り組んでおります。2021年7月には、OFF-GRID 実験棟「空庵 KU-AN」を設置しました。当初はLEDライトをつける程度の電力だった超小集電技術が暮らせる電気のレベルに達しつつあるためオフグリッドの実験施設が誕生しました。

金砂地区を選んだ理由は、ふるさとであったこと(中川氏は常陸太田市出身)や景観がとにかく美しいことが一番大きいです。他にもいろいろな要素が重なりこの土地によられたようにも感じています。この土地の自然を守りながら、自然環境エネルギーで暮らしていけるようにしたいです。高齢化が進む県北地域で、身体の負担を減らした害獣対策や農業活用に超小集電技術やセンシング技術をいかして無理なく暮らしていけるようにしたいです。

オフグリッド…電力会社の送電網につながっていない状態、あるいは電力会社に頼らずとも電力を自給自足している状態。
災害が頻発している近年、災害時はオングリッドだった場所も強制的にオフグリッドとなるため注目を集めている。



浅川近くの最初の実験場にて

西野：中川氏のお話にも私もこの地域を愛する者の一人としてとても共感しました。そこで、私は県北の発展の為に、この地域は中川氏のようなキーマンを中心として同志の研究者や仲間が自然と集まる空間づくりが大切だと確信しました。さらに、空庵でのコンサートやイベント計画、さらにレコーディング施設、休憩・宿泊施設、ビジターセンターや実験棟創設など地域の発展計画、イベントを通しての地元の人々との交流や景観を守るためのナショナルトラスト運動のような話などを伺い、これから地域が明るくなる活動がまだまだできると思えるようになりました。地域の皆さんと手を取り合い、県北地域の明るい未来を切り開く活動をしている方の応援や県北がそうした「人が人を呼ぶ町」徳島県神山町のような地域を目指します。

BS フジ 報道科学ドキュメンタリー
「ミライへの扉」(第1話～第4話)の
取材映像がこちらでご覧になれます▶
(https://tripoddesign.com/video-archive)



つぎに、各地で完成しつつある道路・防災措置について報告します。そして、県北ロングトレイルについてお知らせします。

【北沢トンネルが開通しました】

令和3年10月23日に北沢トンネルが開通しました。
これにより海側からの通行が改善されました。



着手前の国道461号



開通した北沢トンネル



北沢トンネル工事視察



北沢トンネル開通式

【久慈川緊急治水対策プロジェクトの進捗状況】

里川や浅川などの支川の整備が進み、地域への説明が終了したところから久慈川治水対策が始まっています。



治水対策視察

【小目地区 ほ場整備の進捗状況】

～土地改良事業を通じて美田を次世代へバトンタッチ～

小目地区の水田約22haで、平成28年度からほ場整備（土地改良事業）が始まり、令和2年度末までにほ場の大区画化、用水のパイプライン化が完了しました。今後は、排水路や暗渠排水、歩道付きの幹線道路を整備し、令和5年度に事業完了となる予定です。



真ん中の幹線道路が完成に近づいています。

【国道118号 袋田バイパス施工状況】

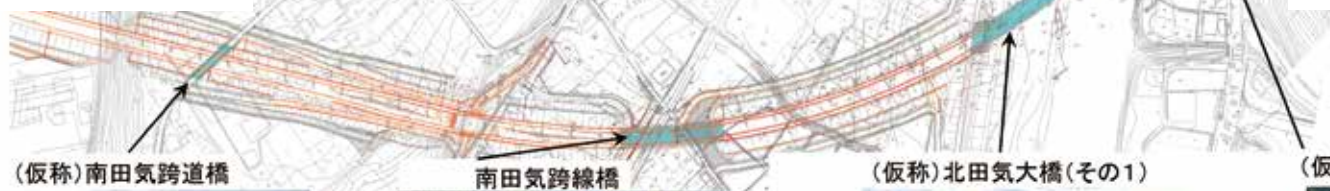
待望の袋田バイパスは令和6年3月の完成を目指しています。



南田気跨線橋設置前視察



南田気跨線橋設置後視察



（仮称）南田気跨道橋

南田気跨線橋

（仮称）北田気大橋（その1）

（仮称）北田気大橋（その2）

施工前



施工中

（令和4年1月）



【国道 293 号 常陸太田東バイパス施工状況】

長尾橋を含む 440m 区間は、令和 3 年 8 月に開通し、これにより国道 349 号から西側 820m 区間までが通行可になりました。



349 号線からの入口



工事中の第 3 号橋(長尾橋)視察



開通した長尾橋(第 3 号橋)



菅田小学校南側のバイパスと市道との立体交差点部

現在、仮設道路になっている菅田小学校南側のバイパスと市道との立体交差点部は令和 4 年度中に開通予定です。

《 県北ロングトレイル 常陸太田のルートが一部開通します！ 》



県北ロングトレイルは、県北地域に点在する多様な地域資源（自然、歴史・文化遺産、食など）をハイキング道などでつなぐ全長 320km（※）のロングトレイルです。（※現時点での想定距離）

令和 2 年からコースの整備が始まり、目標では令和 7 年度中に全長 320km の整備が終わる予定で進められています。

令和 3 年 3 月 28 日には、大子町内の「月待の滝～生瀬富士～袋田」が開通しました。



大子町のコース開通時にロングトレイルを体験



今年度中には、現在の大子町の区域から常陸太田市までの「袋田町営駐車場～男体山～竜神大吊橋～西金砂神社」が開通する予定です。また、令和 4 年度以降にも、日立市に抜けるコースや里美地区などの整備を順次進めていく予定です。県北地域の豊かな自然を生かし、ロングトレイルを整備することによって、地域に根差した新たなトレイル文化を創出するために組織された有志の集まり「茨城県北ロングトレイル協力隊」も募集中です。県北地域の新たな観光資源として、これからが楽しみです。



おかめ山の整備の様子



県北ロングトレイル公式 HP
にはトレイルの概要、歩き方、アクセス案内、Q&A などが載っています。



◀ 詳しくはコチラ



協力隊に
興味がある方は
コチラ



令和3年1月に会派代表として質疑を行いました

『いばらき県議会だより NO.251』の記事を転載します。

新型コロナウイルス感染症対策に関する補正予算などについて審議 令和3年1月臨時会 代表質疑(要旨)

議員 感染拡大防止に向けて「やってよいこと、だめなこと」を明確にしたメッセージを発信し、「正しく恐れる」ことを県民に強く啓発することが、感染症対策と経済活動の両立に効果的である。わかりやすく効果的に事業者・県民に周知徹底すべきだが、取り組みは知事 特に気を付けて欲しい場面を具体的にイメージできるように「マスクなしをなくしましょう。」と県民に呼び掛けてきた。県民の一人一人が自分事として行動変容につなげるため、記者会見の開催などに加え、あらゆる広報ツールを活用し、県民の理解と協力を得て、感染防止に取り組んでいく。(ほかに、編成方針等、地域経済を守るための更なる対策も質疑)

感染拡大防止に向けた県民へのメッセージ発信等

議員 協力金は売上の補填と捉えられ、「一律支給では不公平」との声も聞く。不公平感の払拭に向けた県独自の施策検討も必要である。時短要請と協力金の円滑な執行にどう取り組むのか。所感は。知事 国は制度上、業種や経営状況に応じて支給に差をつけることを認めていない。一日も早く事業者が協力金を届けるのが重要。申請書類の簡素化、電子申請、RPA活用など事務の加速化を図るほか、資金繰り支援、雇用確保、新ビジネス転換などにも取り組む。

新型コロナウイルス感染症対策
営業時間短縮要請協力金



西野 一 議員
いばらき自民党
常陸太田市・大子町選出
一括方式

茨城県小規模企業振興条例プロジェクトが発足しました

議会運営委員会の委員長として1月18日から始めました



県の小規模企業振興条例(仮称)(案)プロジェクトチームの座長として



小規模企業振興条例を茨城県市長会の山口伸樹会長に事前説明しました



昨年の11月に委員長に就任



今年の委員会、加藤新副委員長とともに

総務企画委員会の活動



先進の通信制高校『S高等学校』の視察



大きくリニューアルした『いばらきフラワーパーク』と『花やさと山』の視察



率先してDX対策を行っている『東海村役場』から説明を受けました



『ひたちなか海浜鉄道(株)』にて地域交通の継続性を調査しました

県内全域に1月27日(木)から2月20日(日)まで『まん延防止重点措置』が適用されています

【県民への要請】

- ・ **基本的な感染症対策** (症状がある場合には、速やかに医療機関を受診)
- ・ **同一テーブルでの会食は4人まで** (乳幼児や介助者等は除く)
(ワクチン接種歴や検査実施の有無によらず、4人まででお願いします)
- ・ 混雑した場所や、感染対策が徹底されていない飲食店など、**感染リスクの高い場所への外出・移動の自粛**
- ・ **県外との不要不急の往来自粛** (特に、まん防が適用された都道府県)

新型コロナウイルス感染症に関する最新情報は県のHPでご確認ください。



※今号は2月4日現在の情報に基づき作成しております。